

# 都市再生整備計画 フォローアップ報告書

## 行田市文化ゾーン地区

平成25年8月

埼玉県行田市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	バス利用客数	人/年	66,703	70,000	160,616	確定 見込み ●	○	あり なし	164,350	H24年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	整備対象路線である南大通線が平成23年1月に開通し、当該箇所を通行する市内循環バス路線が新設されたことにより、地域住民の通勤や通学に活用され、利用客が増加している。
指標2	観光入込客数	人	25,000	30,000	32,000	確定 見込み ●	○	あり なし	32,000	H24年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	「忍城時代まつり」の観光客数は増減を繰り返しているが、全体的には増加傾向である。整備対象事業である多目的広場は、忍城時代まつりの他、軽トラ朝市やB-1グランプリ等、多岐にわたり使用されている。
指標3	アンケートにおける満足度	%	39.0	45.0	71.5	確定 見込み ●	○	あり なし				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道路開通によるバス路線の増加や、安全で快適な歩道空間の整備、歴史的・文化的資源やイベントによる来訪者の増加など、本計画に基づいた各事業が多方面で効果をもたらし、総合的に「まちの住みごちの向上」として効果が得られた。
指標4						確定 見込み ●	○	あり なし				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	「魅力あるまちづくり」に対する地域住民の満足度	%	-	/	60.2	確定 ● 見込み	/	/	/	/	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	対象事業が、「市中心部の魅力あるまちづくり」として地域住民に実感して頂けた。
その他の数値指標2	「歴史的・文化的資源を活用した回遊性の向上」に対する地域住民の満足度	%	-	/	69.0	確定 ● 見込み	/	/	/	/	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	対象事業が、「歴史的・文化的資源を結びつけ回遊性の向上を目指した整備」として地域住民に実感して頂けた。
その他の数値指標3				/		確定 ● 見込み	/	/	/	/	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

### 様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	市民が暮らしやすい道路や公園の維持管理	・公園長寿命化計画に基づき、公園遊具1基を更新した。	・遊具の更新により、より高い安全性が確保された。	・継続して遊具の更新を行う(平成25年度予定:11公園27基)とともに、実情に応じた長寿命化計画の見直しを行う。
	来訪者にやさしいまちづくり	・SNSによる観光情報等の発信を開始した。	・来訪者の情報入手手段が多様化することにより、利便性が向上した。	・川のまるごと再生事業を活用し、埼玉県との協働による各種取組みを進める。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	利便性及び安全性の一層の向上と、コミュニティ空間の創出	・新たに策定した生活道路安全対策マニュアルに基づき、佐間1丁目の一部他、計約55haをゾーン30に指定し、時速30kmの速度制限を導入した。	・一体的な速度制限の導入により、安全性が向上した。	・国道125号の道路拡幅を伴う歩道整備について、引き続き要望する。 ・(都)常盤通佐間線、(一)行田市停車場酒巻線バイパス、南北道路(市道第5.1-3号線)などの南北軸幹線道路は更なる充実が必要である。
	まちなかの回遊性向上	・中心市街地と忍城址を繋ぐ国道125号本丸地内の歩行者空間確保について、埼玉県と協議、調整を実施した。	・平成24年11月に段差解消工事が完了し、道路と隣接地の段差が解消されるとともに、一定の歩行者空間が確保され、安全性及び回遊性が向上した。	・国道125号の道路拡幅を伴う歩道整備について、引き続き要望する。 ・川のまるごと再生事業を活用し、埼玉県との協働による各種取組みを進める。 ・ふるさとづくり事業の活用による街並み形成を図る。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

### 様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

# 都市再生整備計画(清算報告)

ぎょうだしぶんか  
行田市文化ゾーン地区

埼玉県 ぎょうだし  
行田市

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	行田市	地区名	行田市文化ゾーン地区	面積	110 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

<b>目標</b>
<p>大目標 : 水・緑・文化・歴史空間の有機的ネットワークを形成することにより、交流拠点の整備や市民生活の質の向上を図り、行田市全体の活性化を目指す。</p> <p>目標 1 : 忍城址やさきたま古墳公園などの歴史的資源が持つ魅力を活かした、個性あるまちづくりを進める。</p> <p>目標 2 : まちなかの活性化を促進するため、人々を市街地へ誘導し、回遊させる仕組みづくりを進める。</p> <p>目標 3 : 都市機能の充実を図り、市民が心豊かで快適に暮らせるまちづくりを進める。</p>

<b>目標設定の根拠</b>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●行田市は、埼玉県北部に位置する人口約8万7千人の都市である。北は利根川を挟んで群馬県に接し、市域のほぼ全域が利根川と荒川の沖積平野となっている。このため、忍川や元荒川をはじめとした河川が縦横に流れ、肥沃な土壌の穀倉地帯を形成しているとともに、武蔵水路や見沼代用水といった導水路の起点となるなど、首都圏の水供給における要衝として、また、水と緑豊かな田園都市として発展を遂げてきた。</li> <li>●国指定史跡である「さきたま古墳群」や、埼玉県指定旧跡である「忍城跡」などの歴史的遺産が数多く残され、歴史・文化都市としてもその名を知られている。</li> <li>●平成18年1月1日には、隣接する北埼玉郡南河原村と合併し、埼玉県北東地域の中心都市として新たなスタートを切ったところである。</li> <li>●市の主要交通機関として、東京都心に直結するJR高崎線があるが、市の縁辺部を通る路線となっているため、市の中心部においては、高度経済成長期からバブル期にかけての開発圧力から逃れ、昔からの面影が残る街並みや区画が、結果的に多く残される形となった。</li> <li>●「行田市文化ゾーン地区」は、そのような本市の中心部に位置し、市役所をはじめとした公共・公益施設が立地する業務地区や、忍城址、郷土博物館、水城公園などの、歴史と文化、水と緑の地域資源を内包する、市の顔と呼ぶに相応しい地区である。</li> <li>●平成14年度～18年度の5か年にわたり、「まちづくり総合支援事業」を活用し、本市の持つ地域資源を有機的且つ有効的に繋げる独自のまちづくりを進めた結果、事業完了区間において徐々に整備効果が表れはじめ、整備済の道路を行き交う人の数が見えて増加するなど、大きな成果を挙げている。</li> <li>●しかしながら、その整備はまだ半ばの段階であるため、こうした成果も一部の区域に止まっており、各地区を結ぶ十分なネットワークの形成には至っていない状況である。</li> <li>●このようなことから、今後、事業を総合的且つ集中的に実施し、地域の特性を活かした目標に沿ったまちづくりを推進するためには、まちづくり交付金が不可欠となっている。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市の中心部を通る秩父鉄道(秩父線)は、秩父市と羽生市を結ぶ東西方向の輸送機関であるが、東京都心部と直結していないため、朝夕の通勤・通学利用者などの人々の往来が少なく、日常生活の営みの中で自然に人が集まるまちの仕組みとなっていない。</li> <li>●そういった一見マイナスとも見える要素をプラスの方向へと転換するため、本市の持つ歴史的・文化的資源を最大限に活用し、古墳時代からの悠久の時の流れにぞらえ、ゆったりとした時間の流れが楽しめるような質の高い整備を図るなど、他の市町村にはない独自のまちづくりを展開していくことが必要である。</li> <li>●については、これまでの「まちづくり総合支援事業」による整備に引き続き、景観や歩く楽しさ、休憩スポットといった、子供からお年寄りまで幅広い世代に受け入れられる要素を大切にされた整備を進めることで、誰にとっても住みやすい、訪れやすい環境を整えていくことが重要である。</li> <li>●また、商店街をはじめとした中心市街地の空洞化に歯止めがかからない現状に鑑み、その閉塞感を少しでも打開できるよう、市民が暮らしやすいような都市機能の充実を図ることや、訪れる人の興味・関心を引く仕掛けづくり、点在する観光スポットを将来ビジョン(中長期)</li> <li>●『第4次行田市総合振興計画』…豊富な地域資源を活用した整備を推進し、観光ポイントのネットワーク化を図り、市街地と連携しながら本市の個性を表現するとともに、住む人も訪れる人もやすらぎを感じられるような空間の創出に努める。</li> <li>●『行田市都市計画マスタープラン』…広域的なレクリエーション機能を持つさきたま古墳公園と、停滞する中心市街地の相互連結を強化するため、歴史と活力が調和する行田市を象徴する道路景観づくりを進める。</li> <li>●『行田市文化ゾーン整備計画』…忍城址やさきたま古墳公園など、市民の心の拠り所となる行田を象徴する風景や、行田独自の観光文化を創造するとともに、新しい商業や産業を育み、観光施設を訪れる人々をまちなかへ導くことで、市内全体の活性化に結びつける。</li> </ul>

<b>目標を定量化する指標</b>								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値		目標値	
						基準年度		目標年度
バス利用客数	人/年	市内循環バスの利用客数	市役所通り・水城公園通りの整備により、市内を訪れるきっかけを多く生み出すことで、循環バス利用客数を増加させ、地区内はもとより市全体への整備効果の波及目的広場を整備し、現在別の場所で開催している祭りの開催環境を整えることで、入込客の一層の増加を図り、その波及効果で街なかの活性化を目指す。	66,703	平成17年	70,000	平成23年	
観光入込客数	人	忍城時代祭りに訪れる観光客数	各整備によりまちの住みごこちの改善を図り、4年に一度の調査において市民満足度の向上を目指す。	25,000	平成17年	30,000	平成23年	
アンケートにおける満足度	%	『行田市民意識調査』での「まちの住みごこち」肯定派の割合		39.0	平成14年	45.0	平成22年	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1【歴史的資源が持つ魅力を生かした、独自のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の持つ地域資源である「さきたま古墳公園」や「忍城址」などが持つ歴史的魅力を、十分にまちづくりに反映させ、他の市町村にはない独自性を打ち出し、行田市のアイデンティティ確立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的広場整備 【基幹事業／地域生活基盤施設】</li> <li>案内板、説明板整備 【基幹事業／地域生活基盤施設】</li> </ul>
<p>整備方針2【人々を市街地へ誘導し、回遊させる仕組みづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民はもとより、主にさきたま古墳公園を訪れる観光客などに対して、市の持つ潜在的な魅力を認識させることで、散策してみたいと思われるようなまちの構造を創り出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市道第6.2-8号線整備 【基幹事業／高質空間形成施設】</li> <li>案内板、説明板整備 【基幹事業／地域生活基盤施設】</li> </ul>
<p>整備方針3【都市機能の充実による、心豊かで快適に暮らせるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本地区への市内外からのアクセス及び主要交通拠点へのアクセスを強化し、誰もが心にゆとりを持ち、豊かな日常生活を享受できるよう都市基盤を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南大通線整備 【基幹事業／道路】</li> <li>市道第5.1-3号線整備 【基幹事業／道路】</li> </ul>
<p>その他</p>	

